

戦国時代、上杉謙信は武田信玄と幾度も対立し、大きな戦いも5度ほど行いました。武田信玄が隣国今川氏との戦いの影響で経済封鎖されてしまいました。海のない信州は塩がなくなり、民もパニック寸前のところまで追い込まれていました。今もそうですが、塩は人間が生きていくための必需品です。これがなくなると人は生きていく事ができません。その時、敵対関係にあった上杉謙信は武田信玄に対して日本海の塩を送ったという有名が話があります。上杉謙信は人の義を重んじ、義を果しました。また情の厚い人物でした。そして上杉謙信の家系は多くのクリスチャンを匿ったとされ、義を重んじ、情に厚い部分は継承されていました。その当時のクリスチャンは守るに値する人生を送っていたとも言えます。周囲から認められていたということです。日本には「わが身をつねって人の痛さを知れ」という言葉があります。自分をつねる時は、手加減をしますが、相手をつねる時は手加減をしません。私たちが自分に手加減をするのは、つねった時の痛みを知っているからです。私たち日本人は今も情に厚く、辛抱強い民族でもあります。日本人は同情する心が強いのです。今回の大震災でも、助け合ったり、支えあっている姿が全世界的に賞賛されています。しかし私たちは同情する心を持ったままで、聖書を実践できるのかを見て行きましょう。（ルカ6：27～38）私たちは聖書を通して何十回も“愛しなさい”と聞いています。それを受けて隣人に愛を分けてあげたいと実践しています。しかし私たちはどのように愛していますか。私たちは自分の持っている同情心から愛していないでしょうか。自分よりも立場が“上”であったり、自分を憎んでいた場合、同情心から愛しているのでは限界があります。同情心からでは自分よりも同等かもしくは助けてあげたいと立場が“下”の人でなければ愛することはできません。私たちは自分よりも立場が良い人を、また自分を悪く思っている人、憎んでいる人を同情することはできません。これは聖書が伝えている本当の愛でしょうか。上杉謙信は武田信玄の立場が下であったために、塩を送る事ができました。義と情では正しい事をしていました。しかし武田信玄が自分より強い立場であった時は、塩を送るようなことはせず、戦さばかりしていました。義により正しい行動はできても、本物の愛する行動ではありません。27節では「あなたの敵を愛しなさい」29節「あなたの片方の頬を打つ者には、ほかの頬をも向けなさい。」と書いてあります。情に厚い日本人であっても、ここまでできるでしょうか。聖書は正しい事を伝えています。そしてすべて実行することです。きれいごとではありません。それはイエスキリストの歩みを見ていれば分かります。自分を裏切った人々に愛を現して、赦しています。このことから本当の愛とは自分の目にはどのように写ったとしても関係がありません。その人がそれを求めているのであれば、与えなければいけません。自分にしてもらいたいように周りに人にしなければいけません。「天の父があわれみ深いように私たちも憐れみ深く」なりましょう。主は私たちにこれを実践するように言っていますが、決して重荷とはならないとも言っています。私たちは自分の力でしようとする、相手の弱いところを見つけて、自分が優越感を感じる部分しか愛する事ができません。しかし本物の愛は“愛を流してあげよう”“かわいそう”というような上からの目線では愛を伝えることは決してできません。聖書の命令は2つに集約されます。「神を愛すること」と「自分と同じように周りにいる人を愛すること」です。自分よりも立場が弱い人にしか愛せないのでは意味がありません。それは本当の愛とは違います。ではどのようにすればいいのでしょうか。本物のクリスチャンになるために①同情ではダメ！なのです。自分の目にどのように写ったとしても、自分にしてもらいたいようにしていきましょう。優越感と劣等感の中で相手に愛を流すのではありません。2レプタを捧げた女性は多くを捧げていたパリサイ人より神に認められました。パリサイ人は自分は裕福なことを自慢し、貧しい人を裁きながら捧げていました。このような心では本物のクリスチャンとしての行動を取ることはできません。ではどのようにすればいいのでしょうか。イエスキリストはゲッセマネでの祈りでも「私からこの杯を取り去ってください」と祈っています。本当の愛を流す事はとても辛いことかもしれません。自分の敵を愛することは人間的には難しいことです。しかし「あなたの御心のままに行ってください」と祈り、神に委ねました。ダビデは自分が罪を犯した後、詩篇51編でこのように祈りました「聖霊を私から取り去らないで下さい」と。これを実践していくには御霊の力がが必要です。本物のクリスチャンになるために②御霊によって宣言、行う。私たちは赦せない人を赦す！愛せない人を愛す！受け入れられない人を受け入れる！と宣言して、行いましょう。聖書は正しいことをあれこれと考える教えではなく、正しい事を宣言して行うことを教えています。私たちにできない事も、できる力は神にあります。だから宣言して行うだけです。本当の愛は人間の力を超え、神がするのだと教えています。自分でしようとするから苦しいのです。相手を受する事を御霊によってするだけです。ダビデは自分のした行動が人間的に最低であると認め、御霊によって行動するようになりました。私たちも自分の感情のまま、愛を実践しようとしてもできません。御霊に「助けて下さい」と宣言して愛を実践していきましょう。同情による伝道では人々を救いへは導く事はできません。そのために私たちはダビデのように神の御前に低いものになりましょう。本物のクリスチャンになるために③伝えるより伝わる御霊。私たちは普段何気なく生活している中であっても、私たちを見て光り輝いていると感じている人がいます。たとえ私たちの現状が悪かったとしてもいつも心に「義と平和と聖霊による喜び」があれば、御霊により自然と伝わるのです。キエルケゴールが「人を愛するは人をキリストへ導くこと」という言葉を残しています。真理を伝えたいのであれば、自分が真理としてキリストを表さなければなりません。キリストはどのようにしたのでしょか。イエスキリストは公生涯を始める時、荒野で40日40夜を断食しながら過ごしました。ここで肉に死に、ヨルダン川でバプテスマのヨハネから洗礼を受けました。その時、天から鳩のように下ってきた聖霊を受けました。それからイエスキリストは宣教を開始しました。この地上では天から注がれた聖霊によって歩み続けました。それによって周りに影響を与え続けることができました。私たちも自分の同情心から愛を伝えるような事ではなく、すべての人に愛を実践しなければいけません。私たちの周りにいる人を赦し愛しているでしょうか。十字架での犠牲があるからこそ、私たちの今があります。私たちも同じように自分に死に御霊によって愛を現さなければいけません。私たちの側に御霊はいるのでしょうか。そして自分の考えと御霊の考えでのどちらで進んでいるのでしょうか。できていないのであれば、私たちは悔い改め進む道を変えるしかありません。私たちが御霊と歩んでいれば、必ず伝わります。そして自然と愛を現すことができます。自分の醜さを知れば、私たちは隣人を愛する事ができます。それを通して御霊が働きます。私たちが本物のクリスチャンとなるために、御霊と共に歩いていきましょう。（要約者：平澤一浩）